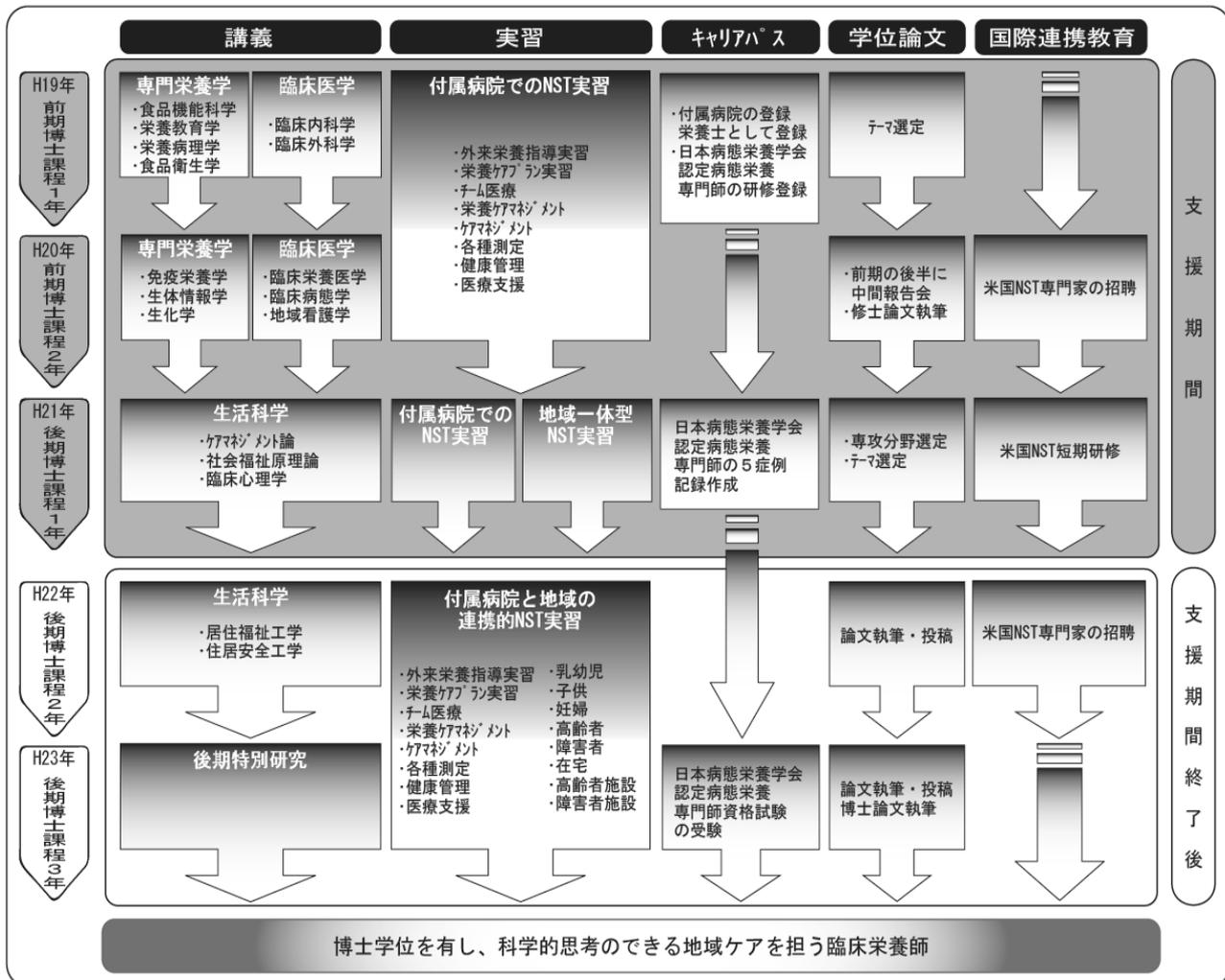
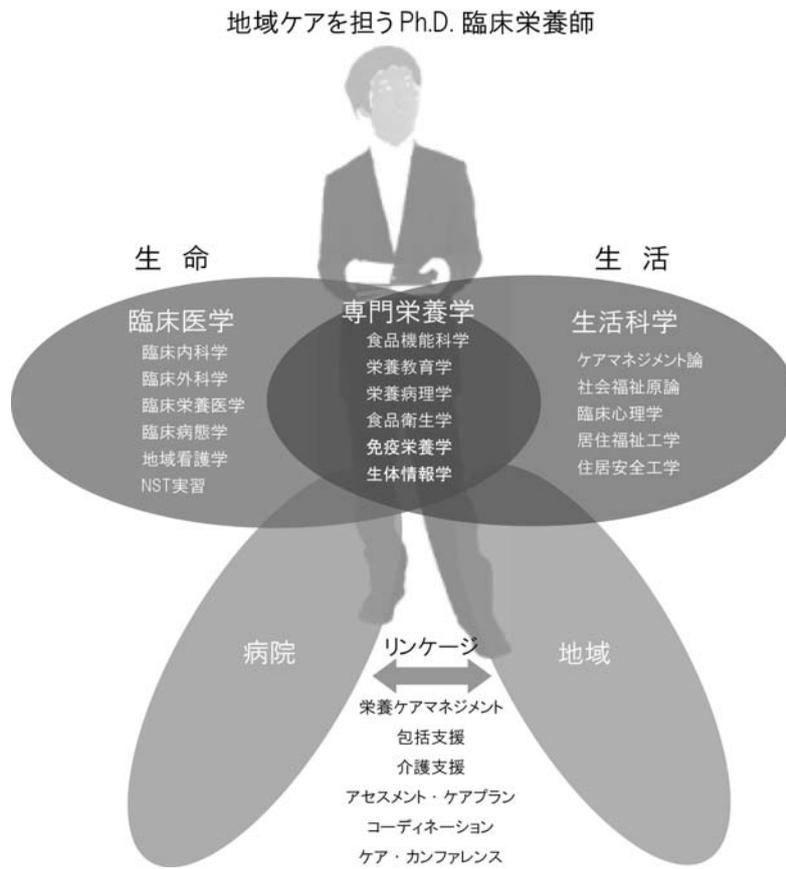


教育プログラムの概要及び採択理由

機関名	大阪市立大学	申請分野(系)	医療系
教育プログラムの名称	地域ケアを担うPh.D.臨床栄養師の養成 (病院と地域をつなぐ管理栄養士のエキスパート教育プログラム)		
主たる研究科・専攻名	生活科学研究科生活科学専攻食・健康科学コース		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 羽生 大記		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>■ 管理栄養士に高度な専門的知識・技能が求められている</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 病者を病院から地域で支えていこうとする時代にあって、地域で病者の健康管理を進めていくためには、医師、看護師、保健師、介護士、社会福祉士に加えて、管理栄養士が栄養管理のエキスパートとして参加し、高度の専門的知識・技能を有して活動することが社会の側から強く求められている。制度的にも、ここ数年の介護保険での介護報酬や医療保険の診療報酬に、管理栄養士の個別的な栄養管理が位置づけられた。 ● こうした地域ケアを担うエキスパート臨床栄養師を育成するためには、以下の視点での教育が不可欠である <ol style="list-style-type: none"> ① 従来 of 集団的な給食管理教育から、病者に対する個別的臨床栄養支援教育 ② 病者への病院での支援から、地域での臨床栄養支援教育 ③ 欧米での教育と同様に、臨床経験を積ませ、臨床栄養支援を可能にする幅広く、かつ深い知識・技能を付与する教育 <p>■ 社会のニーズに即した管理栄養士教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ● わが国において欧米諸国と同レベルの臨床栄養師を育成するには、管理栄養士を広く大学院に受け入れ、栄養学の専門家として十分な専門栄養学、臨床医学を習得させるとともに、チーム医療を栄養面から担う基礎知識として、幅広く系統的に臨床栄養学を学ぶ必要がある。 ● 管理栄養士としてのスキルアップは実務家として必須で、Nutrition Support Team (NST)が整備された大学附属病院での臨床インターン研修を十分に積む。 ● 地域ケアのフィールドで実践的な臨床インターン研修を積ませる。 ● 臨床栄養学的課題を科学的に解析し、基礎的学問分野に還元して論文化するプロセスを学び、博士の学位を取得することで高い学識を得る。 <p>■ 地域ケアを担うPh. D. 臨床栄養師を養成するための理想的な教育プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域ケアの場においては、管理栄養士は栄養ケアプランの立案、実践の主要な担い手としての役割が期待される。上記の病院管理栄養士としての知識、経験に加えて、高齢者を中心とする地域ケア・在宅ケアにおける諸課題に適切に対応する基礎知識として、当大学院でケアマネジメント学、臨床心理学、居住福祉工学などを履修する。 ● 栄養ケアプランの実地訓練の場として、当大学周辺の高次機能病院をコアにした地域一体型NSTをフィールドとして確立し、地域ケアにおける臨床栄養学的課題への理解と対処法を学ぶ。 ● 本プログラム履修者は病院管理栄養士としての十分な知識と臨床経験を積み、地域ケアでの栄養ケアにも習熟する。病院と周辺地域ケア現場を有機的に連携させ、地域が一体的に栄養ケアに取り組むフィールドを牽引するリーダーとなり得る。 			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



支援期間

支援期間終了後

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「地域ケアを担うPh.D.臨床栄養士の養成」という、わが国初の本格的な臨床栄養士の養成目的が明確に掲げられており、その独創性は評価できるが、それに沿った体系的な教育課程の編成については、修士課程と博士課程における教育の一体化について更なる検討が必要である。

教育プログラムについては、「地域ケアを担う臨床栄養士」の養成のために周辺学問領域と連携させている点は評価できるが、教育プログラムの内容が多く、目的を達成するために洗練化(より特化させる)する必要があり、また、博士号取得のための研究内容(薬学との連携の検討)は、具体性と実現性の観点から更なる検討が必要である。